

心理学研究科長挨拶

神戸学院大学心理学部 石崎 淳一

2019年4月、私たちは大学院の心理学研究科をスタートさせました。これは学部4年間と大学院2年間を合わせた6年間を標準的な学修モデルとする公認心理師の養成に対応するためです。その1年前の2018年4月、私たちはまず心理学部を開設しました。その記念フォーラムが同年5月、明石市の泉房穂市長の基調講演等を含めて、記念式典と共に盛大に行われました。そして本年7月には、東京大学の丹野義彦教授を講師としてお招きし、新研究科の開設記念講演会を行いました。丹野先生はわが国を代表する臨床心理学者の一人ですが、公認心理師資格の成立に深く関わってこられ、現在は公認心理師の会の理事長として制度の発展に尽力しておられます。

公認心理師法は、4年前の2015年9月に成立しました。そして2017年9月に法律が施行されました。公認心理師は、わが国で初めての心理専門職の国家資格です。数少ない厚生労働省と文部科学省の共管資格となっています。心理職にとっては、長い間求めてきた国の資格です。したがって、それは大変喜ばしいことであり、心理学界や心理職の関係者が活気づいているのは良いことです。しかし、国の資格は専門職のために作られたものではありません。21世紀に入って約20年が経とうとする現在、心理支援を専門業務とする国の資格が新たに作られたのは、現在の日本社会に心理支援の必要なさまざまな深刻な問題があるということの証左でもあります。したがって、その社会的なニーズに応えていくことが心理職に与えられた責務です。

本学は、これまでも大学院において臨床心理士その他の心理専門職の養成を行ってきました。私自身も90年代以降、さまざまな医療現場や教育現場等で心理支援を行ってきました。この間、ITを始めとする現代の高度に発達したテクノロジーは社会的環境を大きく変化させてきました。その恩恵と同時に、複雑化した心理的環境が新しいストレス因となって私たちの心身の健康にマイナスの影響を与えています。このような時代において、心理専門職はその専門性を更に高めることが求められ、高度な専門性によって国民の心の健康を守るために貢献することが期待されています。

心理学研究科は、これまでの本学の心理専門職養成の経験と蓄積を活かして公認心理師の養成を行なっていきます。大学院の学修では、学部段階における心理学の基礎的な知識と技能の修得の上に、医療、福祉、教育等の多様な現場において実践的な学外実習を実施します。また2007年の開設以来、心理学部の教職員・スタッフが一体となって地域の方々に心理支援を提供してきた心理臨床カウンセリングセンターにおいて、大学院生は実際の心理支援業務の一部を実習として担います。

学部及び大学院における本学の公認心理師の養成体制が整いました。大学全体のバックアップを受けながら、全ての教職員・スタッフは個々の専門性を発揮しつつ一つのチームとして働き、社会に出て活躍できる有為な心の健康の専門家を送り出していくために努力していきます。